

地方都市視察報告書

環境建設委員会

1 実施日

令和 7 年 11 月 5 日（水）

2 視察地 兵庫県姫路市

【市の概要】

- (1) 面積 534.35 km²
- (2) 人口・世帯数（令和 7 年 9 月 30 日現在）
 - 住民基本台帳人口 520,614 人
 - 住民基本台帳世帯数 251,159 世帯



- (3) 姫路市は、1889 年（明治 22 年）に市制を施行し、軍都としての側面も持ちながら鉄道や工業施設の整備が進み、戦後は都市復興と区画整理により都市基盤が整備された。1996 年（平成 8 年）には中核市に移行し、2006 年（平成 18 年）に周辺 4 町と合併し、現在の市域となった。

兵庫県の南西部に位置し、古来より西国街道をはじめとする交通の要所として栄え、播磨地方の中心都市として発展してきた。兵庫県内では神戸市に次ぐ規模の人口を有し、鉄鋼や化学、機械関連などの製造業や、観光業や小売業などの商業、米や野菜、水産業をはじめとした農業などの多様な産業が根付く、兵庫県内でも重要な経済拠点となっている。

また、世界遺産や国宝に指定され日本最古の現存天守を持つ日本を代表する「姫路城」のほか、9 つの異なるスタイルの庭園を楽しむ「好古園」、映画のロケ地としても使用された書写山「圓教寺」など、文化的な観光資源も豊富である。

3 視察項目・内容

「姫路市ウォーカブル推進計画」について

4 視察参加者

【委員】

渡辺みちたか 委員長	高 月 ま な 副委員長	時光じゅん子 委員
かなくぼなな子 委員	志 田 雄 一 郎 委員	鈴 木 ひ ろ み 委員
豊 島 あ つ し 委員	渡 辺 清 人 委員	さわいめぐみ 委員
沢 田 あ ゆ み 委員		

【随員】

議会事務局職員 2 名

5 視察結果・所感

姫路市では、観光客等が姫路城だけを観光し滞在することが少ないことや、出かけたくなるスポットの創出が課題となるなど、市の中心部の回遊性や快適な歩行空間の創出、多面的な界隈性の向上について課題があった。そのため、「街への期待感が高まり歩きたくなる、歩くことが暮らしを豊かにする都市」を目指し、「姫路市ウォーカブル推進計画」を策定した。この計画では、ウォーカブル（※）な街を作ることで、観光振興や回遊性の向上だけでなく、健康増進や子どもたちの遊び場創出などの効果も期待しているとのことであった。

この推進計画に基づく社会実験では、姫路城近辺の中ノ門筋エリアを通行止めにしてイベントを行ったほか、駅前広場にベンチやテーブルを設置する取組を行い、いずれも利用者数や利用時間が増加するとともに、来場者から高い満足度が示される結果となった。

また、道路を活用してイベントを開催する場合は、これまで実施主体が限定されていたが、同計画により様々な団体等が道路を活用できるようになった。ウォーカブル推進計画の実際の担い手は住民であることから、今後、さまざま活用を期待しているとのことであった。

現地視察では姫路駅周辺や駅前広場をご案内いただいた。姫路駅周辺は「城を望み、時を感じ人が交流するおもてなし広場」という基本コンセプトのもと、平成元年から再開発事業を行い、駅のコンコースからまちの象徴である白く美しい姫路城が見えるように整備した駅施設やイベントでも利用可能な南北の駅前広場の整備のほか、駅北側への歩行者デッキの設置、タクシー・バスのみが通行可能なロータリーの整備などにより快適な歩行空間が確保されていた。本区でも新宿駅周辺の回遊性の向上や快適な歩行空間の創出に取り組んでいることから、大変参考になる視察であった。

※ ウォーカブル：歩きやすい、歩くのが楽しい

6 主な質疑項目

- (1) ウォーカブルなまちづくりのための建物ハード面の規制（車庫の出入口や、建物の高さなど）と住民の反応について
- (2) にぎわいの創出や健康増進のための車歩分離型の駅前整備について
- (3) 住民や来街者にとって魅力的なにぎわいの創出について
- (4) 住民参加によるイベントの開催など地域全体で進めたウォーカブルなまちづくりについて
- (5) かつて地域の再開発から取り残された地区が地域の取組により活性化していることについて
- (6) イベント開催時の交通整理の具体的な取組について
- (7) 道路空間を活用する際のワンストップ窓口について
- (8) 行政・地域住民・事業者の連携について
- (9) 駅周辺の再開発にあたり住民の意見を取り入れ事業計画を大幅に変更して再開発事業を進めた経緯について

7 その他

【共同理事者】

都市計画部 新宿駅周辺基盤整備担当課長



姫路市担当課からの説明・質疑



姫路駅周辺の現地視察